

立川市の将来像
『にぎわいとやすらぎの交流都市 立川』

法令・学習指導要領 立川市教育委員会 教育目標

立川市の目指す子どもの姿
○「知」「徳」「体」の調和のとれた力を備えた子ども
○生涯にわたって自己を高めようと努力する子ども
○まちを知り、まちに愛着をもち、まちのよさを受け継ぐ子ども
○まちや社会と主体的に関わり、貢献しようとする子ども

立川市の重点課題
○学力・体力向上 ○特別支援教育の充実 ○小中連携

重点取組事項
○ネットワーク型の学校経営 ○カリキュラム・マネジメント

立川市立柏小学校 教育目標
21世紀を主体的に生きる、国際的視野に立った、人間性豊かな児童の育成を目指す。
・よく考えて実行する子ども (重点目標)
・心豊かで思いやりのある子ども
・健康でたくましい子ども

立川第四中学校区 共通経営方針
小中学校を連続した9年間ととらえ、豊かな心と確かな学力の育成を図る。
校区で目指す子ども像 キーワード「主体性」
○自ら考え、進んで学習する子 (知)
○人と積極的に関わり、他者と協力できる子 (徳)
○自ら進んで体を鍛え、心身ともに健康で安全な生活をする子 (体)

経営理念 学校の果たすべき役割と責任を踏まえた学校づくり (常に質の高い教育活動の展開、市民力を生かしたネットワーク型の学校)
学校教育の現状と動向を的確に踏まえた学校づくり (教育課程の適正な実施、市民に信頼される教職員集団、人権教育の充実)

目指す学校像
「共に生き、共に学び、共に創る
一人一人の子どもが輝く学校」
保護者や地域の思いや願い、行動力を集めて学校づくりを進めていく。学校・保護者・地域が柏小学校の目指す目的を共有し、ともに学校づくりに力を合わせていく。

目指す児童像
○意欲的に学び、よく考え、自分なりの考えを表現できる子
○思いやりの心をもち、相手の立場に立って考え、関わり、行動できる子
○基本的な生活習慣を身に付け、心身とも健やかで、根気強くやり抜く子

目指す教師像
○高い指導力と優れた職務遂行能力をもつ教師
○優れた人権感覚と特別支援教育能力、コミュニケーション能力を身につけた教師
○組織力、機動力を生かして課題を追求する教師

教育活動の目標と方策

【柏小学校の取組】 【チームプレー】 - 助け合い、感謝し合い、高め合う -
①目標の共有化と組織的な対応
・温かく認め合い、高め合う職員室文化の創造
・組織的な取組 (課題の共通理解と取組への役割分担)
・風通しのよい職員室づくり (助けを求め、一人で悩まない)
②ネットワークによる学校の活性化
・各種交流による多様性尊重教育
(1年: 幼保小連携 2年: ニューカレドニア 3年: サンバーナティノ 4年: 朝鮮学校 5年: 幼稚園・保育園との交流 6年: 小小連携、小中連携)
③コミュニティ・スクールによる学校の活性化
・教育資源の活用による教育力の向上 (資源の発掘と学校づくりへの積極的な参画)
・各種団体との連携による学校づくり (願いの共有と役割分担)
・地域学校協働本部事業による漢字検定・算数検定の実施

【良質な授業】 - 教師の創造性が勝負! -
○教師自らが常に学ぶ姿勢を持ち続け、子供・教師が共に手応えを感じられる授業づくりを行っていく。
I 教師自らが学び、授業の質を高めていく。
・主体的、対話的で深い学びにつながる授業改善
・柏小スタンダードに基づく授業スタイルの確立 (課題解決型授業・深い学びにつながる話し合い活動の工夫、表現場面の設定)
・タブレットを活用しての授業改善 (分かりやすい授業の実現)
・英語指導力の向上 (ALTを活用した授業力の向上)
・OJTの活用 (OJTによる授業力・特別支援力の向上)
・基礎・基本の徹底 (定着度テストによる実態把握、計算領域における指導の共通化、補習・朝学習によるベーシックドリルの活用、漢字検定・算数検定の実施)
II 児童の体力向上
・体力の向上 (休み時間や集会、週間の活用、体育の工夫、オリパラ教育の推進)
・体力・運動能力診断テストの分析と授業改善 (体の動かし方やコツが分かる授業づくり)
・食育の充実 (栄養士による専門的な指導とそれに基づく担任による実践の習慣化、給食指導の充実を図る。)
・アレルギー事故防止 (アレルギー事故防止のためのダブルチェックの徹底)
・心身の健康の充実 (セーフティ教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室等)
・トップアスリートから学ぶスポーツのすばらしさや楽しさの学び (オリパラ教育)

【安心と安全】 - 組織力・機動力を生かす -
I 学校づくりと学級づくり
・機動力、組織力を生かした学校づくり
・所属感や存在感を感じることでできる学級づくり
・学校生活の中で成功体験を多くさせ、自己肯定感を高める。
II 基本的な生活習慣の確立
・生活習慣づくりの共通実践 (せ・め・て、あいさつ、言葉遣い)
・保護者への啓発 (SNSルール、早寝・早起き・あさごはん)
III いじめ・不登校への対応
・児童理解 (子どもや集団の素の姿を見る)
・いじめ防止への取組 (温かな学級の風土作り、迅速な組織的な対応、いじめ対策委員会の開催、関係諸機関との連携)
・行為への対応と被害者、加害者の気持ちへの寄り添い
・欠席児童への対応 (SC、SSWの活用)
IV 特別支援教育の充実
・特別支援教育への理解 (知識理解とスキルアップの向上)
・ユニバーサルデザインに基づく授業づくり
・校内委員会の活性化 (定期的な実施、校内での情報共有)
・特別支援教室柏小さらりの効果的な活用
・関係機関や保護者との連携 (SCや支援員、教育相談等との連携)

【小中連携教育活動】 - 9年間の連続性の重視 -
I 子どもの理解の一貫性
小・中で共通する子どもの理解をすすめること (情報の交流・共有)
II 教育目標の一貫性と学習目標の設定
「育てたい子ども像」を設定し、一貫性のある学習指導、生活指導等をこと行うこと
III 学習の継続性、系統性
子どもの発達段階をふまえた使用教材や指導方法の違いを知り、子どもの学ぶ姿の違い認識し、小・中お互いの指導の中で、大切にしていること等の交流をすすめること
IV 市民科の推進 (多摩・武蔵野検定、救急救命講習、防災教育を柱とした小中連携の推進)
V 「地域に開かれた教育活動」として、地域・保護者が参加できる四中校区音楽会の実施
【校内研修の充実】 - 立川市教育委員会研究協力校研究発表に向けて -
I 研究テーマ「学んだことを生かし、伝え合い、学び合う児童の育成」
～ 算数科におけるよりよい考えを見いだすための指導法の工夫～
☆意欲的に取り組める課題設定・自分の考えをもたせるための工夫・高め合う交流の場の工夫
・算数の授業を児童を中心とした主体的なものにすること
・算数の授業を児童にとって楽しいものにすること
・算数の授業を児童にとって分かりやすいものにすること
・算数の授業を児童にとって感動のあるものにすること
・算数の授業を創造的・発展的なものにすること
・算数を日常生活や自然現象と結び付いたものにすること

